

令和3年度第2回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和4年3月17日（木） 午後3時00分～午後4時45分
- 場 所 伊勢市役所本庁舎東館4階 4-3会議室
- 出席委員 中條、花田、田口、濱口（美）、岩崎、濱口（恵）、秋山、森、竹中、
下野、谷崎、北川、森田、中川、川口、江原
- 事務局 健康福祉部
- ・次長 大井戸、参事 岩佐
 - ・子育て応援課 副参事 谷、子育て応援係長 西川、
こども育成係長 福田、福井
 - ・保育課 課長 堀川、保育係長 濱地、保育施設管理係長 須川
運営係長 森田
 - ・健康課 課長 浦田、母子保健係長 北口
 - ・生活支援課 課長 濱口
 - ・こども発達支援室 室長 樋口
- 教育委員会事務局
- ・教育総務課 課長 前村、中井
 - ・学校教育課 指導主事 浅井
 - ・社会教育課 課長補佐 阿部

議 題

- (1) (特定) 教育・保育施設の利用定員・確保策について
- (2) 就学前の子どもの教育・保育についての令和3年度の取り組み状況について
- (3) 次期「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する施設整備計画」等の策定
について

・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１－１、資料１－２）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

●待機児童と入所保留の違いは何か。

→待機児童とは空きがない状態のことで、入所保留は保育所の空き自体はあるが、保護者の希望する園の空きがない状態のこと。

●小規模保育の開設が増えているが、増える理由や利点を教えてほしい。（コロナ禍という世の中が変わっている中でこういった理由が挙げられるか。）

→0～2歳の受け皿を広げるためであり、地域的にも希望が多い。2歳までなので、それ以降は保護者の希望する園へは優先的に加点調整している。

●待機児童はないが、希望している人が入れない（入所保留）主な原因は何か。

→要因としては、単純に空きがないため。0歳児は特に申し込みが多く、保育士が1人で見ることができる人数も3人までと限られている。

→育休延長の関係や希望する園に入れられない人も多い。

●子育て会議の資料は利用状況や申込数等、数の資料となっているが、子ども目線の保育を大切にしてほしい。

(委) 私どもの園では子どもの数が少ないため、どういう保育を行うかというのを大切にしている。IQやHQ（Human Quotient：人間性知能）等の社会人として必要なスキルを伸ばせるように意識している。

●保育士・幼稚園教諭の配置について、ギリギリではなく余力のある人数を適正に配置していくべきであると考えているが、保育士は足りているか。

→最近では加配の必要な児童も増えているが、児童の定員や先生の配置等は運営費にも関わってくることもあり、適正になるよう考えられている。

(委) 園児が少ない園は運営も厳しい。保育士のシフトも午前・午後で組むため4人必要であり、運営していくには6人は必要となる。同一労働同一賃金といわれている中、園児が少ない園に対しては運営していくための補助金が必要。

(委) 保育士は女性が多く、出産・育児等の穴埋めに非正規職員が雇用されるが、賃金も平均より少ないため、なり手が少ない。潜在保育士の雇用にも取り組んでいる。

(委) 園児が多い園も運営は厳しい状況。保育士も多く必要だが、人手不足や、今回の国の処遇改善で賃金が上がるため扶養内で働く人は働く時間が少なくなり、その分人を増

やす必要がある。

(委) 保護者も子どもの目線に立ち、子育てを大切にし、いろいろなことを経験させてあげることが必要と感じる。そのために啓発が必要と考える。

(委) 保護者の中にも考え込んで鬱になってしまう方もみえるのでその配慮も必要。誰にも言えないが保育士には相談できるということもある。

●小規模保育の定員が12名に対し、22人受け入れとなっている。小規模保育でより個別に見てもらえる環境であるはずなのに気にかけてもらにくい環境になるのでは。

→資料の誤り。正しくは上から計14人、計8人、計14人です。保育士が足りない状態で園児を受け入れることはありません。

●労働時間は市が管理しているのか。保育とワークライフバランスはどうなっているか。

→私立は管理していないが、公立は児童数や経験年数等により配置を行っている。産休等がある場合は会計年度任用職員を配置している。

【事務局より】

議題（2）について説明（資料2）

●教育・保育の実践交流会等の研修会等の実施とあるが、実施は年に一度のみなのか。

→年間を通して実施しており、その成果を秋ごろに発表している。コロナ前は会場で実施していたが、コロナ後はオンラインでの開催。

●巡回相談、交流等は本当に意味のあるものになっているか。（実施する側全員が）知識がないと行うのは難しいと思う。

→職員間や小学校間で共有している。切れ目のない支援を行うことが大切と考える。

(委) 連続性やつながり、一体感を大切にしてほしいと考える。

【事務局より】

議題（3）について説明（資料3）

●要望となってしまうが、公共の施設整備として広い公園と駐車場を整備してほしい。廃校になった土地の利用等で可能ではないか。大仏山や朝熊等はあるが、伊勢の中心部にはない。

(委) 令和4年度に朝熊や大仏山に遊具の設置の予定はある。

(委) 遊具はメンテナンスが必要である等、管理が大変では。安全面も心配。

(委) 子どもの笑顔を見られるようにしてほしい。

【その他】

- 相談・巡回等、特別支援教育のさらなる強化を要望したい。現場では日々の対応に苦勞している。障がい認定はないが、支援が必要（加配）な子も多い。補助金もあるが、足りない。
- パートも含め、人手不足、人材不足を感じる。職員の確保が重要。人材バンクのようなシステムや人出に関するプロジェクトチームを作る等、賃金の問題等も含めて何か手立てを考えることが必要。
→公私ともに課題であると考え。人材バンクについては難しいと考える。人材バンクに登録してもらうよりも前に、公募があればすぐに面接等、採用に向けて動き出している。
- コロナ対応について、ワクチン接種等キャンセル枠で保育士に充ててもらえるのはありがたい。ただ、コロナの陽性者が出た場合に、保育所と保健所との連絡を保育課が窓口になってもらうことはできないか。
→保育課を窓口としても連絡の速さは変わらないと考える。特に、保護者から陽性の連絡をもらう場合は保育課も保健所からの連絡を待っている状態である。
- 認定こども園特有の問題として、連絡や通知が保育課と教育委員会からあるため混乱する。こども園は内閣府、保育所は厚生労働省、幼稚園は文部科学省からの通知があり、ややこしいため、認定こども園にアドバイスできる専門員を配置してほしい。
- 5年後、10年後の計画のビジョンについて教えてほしい。また、少子高齢化に対する策を考える必要がある。共働きしやすい街ランキングというものもあるが、伊勢はランクインしていない。プロジェクトチームを作って、プロを呼んで取り組んではいかがか。
(委) 今すぐの回答は難しいところもあると思う。
- 発達支援について、加配の支援を行うのには職員一人ひとりに偏りのない知識が必要。相談や環境づくりはどの園にも必要。
→前期に計画を考え後期にはどうだったかを振り返るようにしている。三重県のチェックリストも用いて一緒に考えている。

【事務局より】

その他事項の説明（議事録公開の説明等）